

こうちの子ども

体カアツプ

アクションプラン



平成21年4月
高知県教育委員会

Ⅰ アクションプランの活用に向けて

1 本県の体力・運動能力、運動習慣等の現状と課題

「平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が発表され、本県においては、体力合計点で小学5年男子・女子とも全国47位、中学2年男子45位、女子46位であり、小中学生とも全国最低の水準という結果となった。

県教育委員会では、この結果を真摯に受け止め、原因の分析をしっかりと行い、体力の低下傾向に歯止めを掛け、児童生徒の健全な心身の育成を目指して、体力向上に向けた取組の充実を図っていくため、平成21年度を新たな体力向上対策に取り組むためのスタートラインと考えている。

2 重点課題

平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から、次のようなことが明らかになった。

- ほとんどの実技項目で全国平均より大きく下回る傾向にある。
- 男子より女子の数値が低い傾向があり、小学校より中学校のほうがさらに低くなる傾向がある。
- 小学校では、運動する頻度、時間が少ない児童が多い。
- 運動に対する嗜好においても、「運動がすき」「運動が得意」と答えた割合が全国より低い。
- 小学校では、土日の運動頻度、時間とも全国平均より低い。

これらの結果から、体力向上については、運動習慣を定着させることが不可欠であり、特に小学校を中心に継続的に取り組むことが必要であることがあらためて確認された。

そこで、学校における体育・保健体育の授業や体育的活動の充実、運動習慣の定着に向けた取組を重点課題とした「こうちの子ども体力アップアクションプラン」を策定し、体力向上に向けた取組を進める。



II アクションプラン

1 魅力ある体育学習・体育的活動の充実

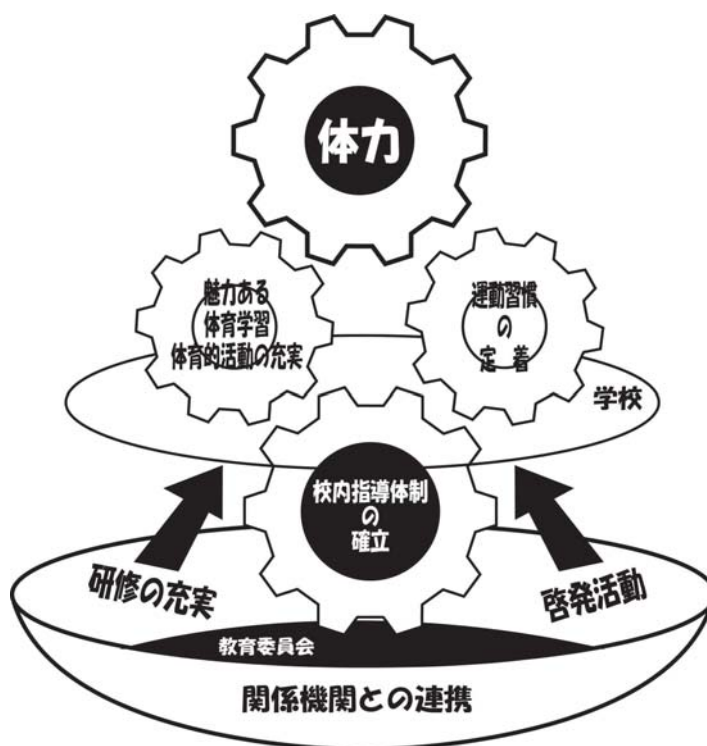
- (1) 児童生徒の実態の把握
- (2) 体力向上を意図した体育授業の充実
- (3) 身体を使った運動をする機会の充実

2 運動習慣の定着

- (1) 児童生徒の実態の把握
- (2) 運動習慣の大切さに気付く指導の充実
- (3) 自ら運動習慣を身に付けようとする活動の工夫

3 校内指導体制の確立

- (1) 校内指導体制の見直し・改善
- (2) 運動の苦手な児童生徒への取組の充実



4 研修の充実と啓発活動

- (1) 体力を向上させるための研修会等の充実
- (2) 啓発活動の推進

5 関係機関との連携

- (1) 関係団体との連携の拡大

1 魅力ある体育学習・体育的活動の充実

今後の方向性

1. 児童生徒の実態の把握

体力の向上に向けては、まずはじめに児童生徒の実態を把握することが大切となる。より詳細な実態の把握から分析が行われ、それぞれの学校の課題が明確化されることで、課題に応じた取り組みを効果的に実施することができる。そこで、各学校が児童生徒の実態把握ができるだけ正確かつ簡素にできるよう支援を行う。

2. 体力向上を意図した体育・保健体育科の授業の充実

(1) 体力の向上に向けては、運動やスポーツを「好き」「得意」と答える児童生徒を育てることが大切となる。そこで、一人一人が学ぶ喜びを味わいながら、基礎的な技能を身に付ける体育・保健体育の授業が実施できるように支援を行う。

(2) 体力の向上に向けては、意味のある活動とできるだけたくさん動きたくするような仕掛けが必要となる。そこで、活動内容の質と量を確保した体育・保健体育の授業が実施できるように支援を行う。

(3) 体力の向上に向けては、計画的・継続的に取組を進めることが大切である。そこで、体力向上を継続的に取組むことのできる体育・保健体育のカリキュラム作成の支援を行う。

3. 身体を使った運動をする機会の充実

体力の向上に向けては、児童生徒が運動やスポーツを行う機会を増やすことが大切となる。そこで、運動やスポーツをやってみようと思えるような体験的な活動の支援を行なう。

具体的な方策

<実態を把握するための取組の推進>

各学校が児童生徒の実態を把握する方法を工夫し、正確な実態把握を行なうことで課題を明確にし、適切な指導計画を立てられるよう支援する。

<新体力テスト実施方法の周知>

測定方法や測定の意義、活用方法などの理解を図り、教職員の共通理解のもと学校全体で新体力テストが実施されるよう支援する。

<データの集計・分析の支援>

各学校において、収集したデータの分析ができるだけ簡単にできるよう支援する。

<小学校体育実技指導資料等の作成>

体力向上に向けた指導資料や運動プログラムを提供するとともに、積極的にその活用方法を広めるための方法を工夫することで、体育・保健体育の授業の充実を図る。

<指導力の向上>

国が実施する「子どもの体力向上指導者養成研修会」への派遣や県内での伝達を目的とした研修会、模擬授業を取り入れた研修会などの実施により、教員の指導力の向上を図る。

<外部講師を活用した体育授業の推進>

専門的指導力を持った外部講師を積極的に活用し、チーム・ティーチングによるきめの細かい、個に応じた授業づくりを支援する。

<運動する機会の提供>

仲間と一緒に体を動かそうとする遊びのきっかけとなるプログラムの提供やスポーツ選手と触れ合う中で、スポーツの楽しさや素晴らしさを実感できるプログラムを提供することで、児童生徒の運動に対する意欲を向上させ、運動する機会を増やす。

平成21年度	平成22年度	平成23年	到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆体力・運動能力、生活習慣等調査実施(高知県) <実施率80%> ◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査実施(文科省) <実施率100%> 	<p>→ <実施率90%></p>	<p>→ <実施率100%></p>	<p>県内すべての公立小中学校で、すべての児童生徒を対象とした体力テストが実施され、実態把握を基にした体力向上の取組が行われる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆「体力テスト実践説明会」の実施(3会場) ◆「新体力テスト実施方法動画CD」作成・配布(全小中学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「新体力テスト実施方法動画CD」配布(希望校) 		<p>県内の公立小中学校の教員が、正確に新体力テストを実施し、児童生徒が持っている能力を測定することができる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆体力テストデータ処理ソフト「カンタンくん」の活用・推進 ◆出張説明会の実施 			<p>「カンタンくん」を活用して、集計・分析を行う学校数が増加し、その結果を指導に活用する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆「小学校体育実技指導資料」の作成・配布 ◆「子どもの体力向上5分間プログラム」の作成・配布 	<ul style="list-style-type: none"> ◆実践資料集の作成・資料提供(HP) ◆指導展開例の資料提供(HP) 		<p>指導資料や運動プログラムを活用した学校が増え、授業の充実が図られる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆体育実技指導者講習会の実施 ◆小学校体育の授業パワーアップ講座の実施 ◆校内研修等への指導主事の積極的な派遣 			<p>計画的に研修会に教員を参加させ、研修内容を校内で伝える場を設定する学校が増加する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆地域スポーツ人材の活用実践支援事業の実施 ・小学校(5・6年対象) ・中学校(武道対象) 派遣数:70校×3回 ・中学校(運動部活動対象) 	<p>派遣数の増</p>	<p>派遣数の増</p>	<p>外部講師を活用した授業や運動部活動が増えるとともに、実践を通して、効果的な連携の仕方が深まっていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆「遊びの達人 大集合！」の実施 ◆スポーツ選手夢先生派遣事業の実施 派遣数:36校 ・小学校(対象:基本5年) <JFAこころのプロジェクト夢先生> ・中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「遊びの達人 大集合！」フェスティバル実施(予定) 		<p>提供されたプログラムに取り組んだり、学校の特色を生かした取り組みを行ったりする学校が増え、休み時間や放課後などを使って体を使った遊びをする児童生徒が増加する。</p>

2 運動習慣の定着

今後の方向性

1. 児童生徒の実態の把握

体力の向上に向けては、児童生徒の運動習慣を確立することが大切であり、運動習慣を定着させるために、実態を把握することが必要となる。そこで、各学校が実態を把握・分析できるように支援を行う。

2. 運動習慣の大切さに気付く指導の充実

運動習慣を身に付けるためには、その意味や取り組み方を学び、日常化できる力を育てることが大切となる。そこで、実践的な態度を育てるために、保健学習や保健指導の充実を図るための支援を行う。

3. 自ら運動習慣を身に付けようとする活動の工夫

運動習慣を自ら身に付けようとするためには、児童生徒の体験活動を意図的に仕組むことが大切となる。そこで、活動の参考となる実践を提供し、活動の充実を図る。

具体的な方策

<実態調査の資料提供>

国や県が実施している調査結果や県内外で実施されている先進的な事例について情報を提供し、各学校で調査が推進されるように支援をする。

<保健学習・保健指導の推進>

新学習指導要領の趣旨説明会や研修会、授業研究会等の指導助言を通して、体力や体力向上につながる運動習慣の必要性を説明したり、情報の提供を行うなどの支援を行う。

<特色を生かした体験学習の推進>

地域の特色を生かした先進的な取り組みや児童会・生徒会活動を生かした先進的な取り組み情報を提供するなどの支援を行う。

3 校内指導体制の確立

今後の方向性

1. 校内指導体制の見直し・改善

体力の向上に向けては、学校が組織として取り組むことが大切となる。そこで、指導体制を強化し、組織として機能するための支援を行う。

2. 運動が苦手な児童生徒への取組の充実

体力の向上に向けては、特に体力・運動能力の低下傾向にある児童生徒に焦点をあてた個に応じた取組を工夫することが大切となる。そこで、各学校が取組を推進することができるように支援を行う。

具体的な方策

<指導体制見直しの推進>

学校指導体制や校内体力向上コーディネーター、体力向上チームの編成など、先進的な取組情報を提供する等の支援を行う。

<指導方法の工夫・改善>

児童生徒一人一人の実態を把握するとともに、特に運動を苦手とする児童生徒への取組を充実させるために、県内外の先進的な取組情報を提供する等の支援を行う。

平成21年度	平成22年度	平成23年	到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆「児童生徒の生活スタイルに関する調査」の実施・結果の公表 ◆関連資料を提供(HP) 	→	<ul style="list-style-type: none"> ◆「児童生徒の生活スタイルに関する調査」報告書の作成・配布 	<p>運動習慣に関する調査を実施する学校が増え、実態に基づいた取組が計画・実施される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆指導要領趣旨説明会の実施 ◆養護教諭研修会等での指導・助言 ◆関連資料の提供(HP) 	→	→	<p>新学習指導要領の改訂の趣旨が生かされた授業が実施され、運動習慣の大切さが分かり、生活に取り入れようとする児童生徒が増える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの体力向上支援事業の「地域と連携した支援事業」報告書の作成・配布 ◆関連資料の提供(HP) 	→	→	<p>各学校の特色を生かした取組が行われ、運動習慣が身に付いている児童生徒の割合が高まる。</p>

平成21年度	平成22年度	平成23年	到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ◆関連資料の提供(HP) ◆学校訪問時における指導主事による指導助言 	→	→	<p>各学校が校内体制を見直し、体力向上に向けた担当部署や担当者を明確に位置づけ、取組が推進される。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ◆関連資料の提供(HP) ◆学校訪問時における指導主事による指導助言 	→	→	<p>各学校が、それぞれの特色を生かした取組が充実し、運動を苦手と思っていた児童生徒が楽しみながら運動やスポーツに取り組むことができる。</p>

4 研修の充実と啓発活動

今後の方向性

1. 体力を向上させるための研修会等の充実

体力の向上に向けては、学校の中心となって取組を推進するリーダーの存在が必要になる。管理職のリーダーシップは必要不可欠であるが、実際に全体を動かすミドルリーダー的存在が重要となる。そこで、学校の核となるリーダーを育成するための支援を行う。

2. 啓発活動の推進

体力の向上に向けては、すべての学校、すべての教職員が課題意識を持ち、取り組むことが必要となる。そこで、体力向上に対する意識を高めるための支援を行う。

具体的な方策

<管理職のリーダーシップの向上>

体力向上への取組に対する管理職の役割を確認し、具体的な取組方法を学ぶことで、学校全体としての取組の充実を図る。

<児童生徒の体力向上に向けた指導者の育成>

体力向上に向けた研修会を計画的に実施し、学校のリーダーの育成を図り、校内において推進的存在として活動できるように支援する。

<体力関連報告書による啓発>

各種調査における報告書を作成し、各学校へ配布するとともに、市町村教育委員会と連携して意識の向上に努める。

<指導資料等による啓発>

各学校が体力向上に向けた取組を実施するための参考となる資料等を作成・配布するとともに、あらゆる機会に学校に出向き、積極的に啓発活動を行う。

<ホームページによる啓発>

体力向上専用ホームページを開設し、リアルタイムで情報発信を行い、啓発活動を行う。

5 関係団体との連携

今後の方向性

1. 関係団体との連携の拡大

体力の向上に向けては、子どもたちを取り巻く多くの各団体が連携した取組を行うことが大切となる。そこで、県教育委員会が中心となり、各関係団体との連携を強化していく。

具体的な方策

<体力向上に向けた連携方法の工夫>

学校体育団体や競技団体等との連携方法を工夫し、児童生徒の体力向上に向けた取組の強化を図る。

平成21年度	平成22年度	平成23年	到達目標
◆小中学校長会等での体力に関する説明			管理職のリーダーシップのもと、体力向上に向けたPDCAサイクルが機能した取組が行われる。
◆体育実技指導者講習会の実施(8月) ◆体育の授業パワーアップ講座(7月下旬～8月) ◆初任者研修、各年次研修			各学校が計画的に教員を派遣し、リーダーを育成しようとする意識が高まるとともに、各研修会に参加する人数が増加する。
◆「体力・運動能力、生活実態等調査報告書」(10月) ◆「全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書—高知県概要版—」(1月) ◆体力担当者協議会の開催(1月)			各学校及び各市町村教育委員会が報告書を基に、体力向上に向けた取組を評価し、取組の改善を図る。
◆小学校体育指導資料の作成・配布 ◆子どもの体力向上5分間プログラムの作成・配布	◆実践資料集の作成・資料提供(HP) ◆指導展開例の資料提供(HP)		各学校が、配布された資料を基に校内研修を行い、すべての教職員の共通理解のもと、授業実践が行われる。
◆ホームページの開設・更新			各学校、各教職員がホームページを活用し、体力向上に向けた取組が充実する。

平成21年度	平成22年度	平成23年	到達目標
◆各協議会等への委員としての参加依頼 ◆共催事業の企画・実施			関係団体との連携が深まり、体力の向上というベクトルを一致させた取組の充実が図られる。

Ⅲ 指導の手引き

指導の手引きは、体力向上に向けて学校や教育委員会が取り組むべき内容を例示したものです。

児童生徒の体力向上に向けた取組については、これまでも各学校が様々な取組を行っており、成果を上げている実践例も数多く報告されています。また、教育委員会においても体力向上に向けた事業を実施してきました。これらの成果を踏まえ、全小中学校が体力向上に取り組めるようにするため、

- ① 各学校で従来から行っている取組
- ② 県内外の小中学校で実践されている先進的な取組
- ③ 今回提案する新たな取組

を盛り込んでいます。

<実施上の留意点>

指導の手引きは、その内容をすべて実践することを提案しているのではなく、紹介した取組の中から学校（担任）がその実情に応じて選択して実践できるようにしたものです。

実践する際には、次のような点に留意する必要があります。

- 一人で取り組むのではなく、学校全体が組織的に取り組むこと
- 取組の成果が現れるには時間がかかるため、結果を焦らず一度取り組んだことを継続して実施すること

また、実施に際しては、

- 各学校の実状に応じて方法を工夫すること
- その取組が児童生徒にとってどの程度有効に機能しているかを確認し、常に取組方法を改善していくこと

が望まれます。



	対応の視点	内 容
魅力ある体育学習・体育的活動の充実	(1) 児童生徒の実態の把握	
	ア 実態把握による適切な支援	<p>○児童生徒の体力・運動能力について正確に把握するための取組 児童生徒の実態を把握する方法を工夫し、正確な実態把握を行なうことで課題を明確にし、適切な指導計画を立てる。</p> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体カテストの実施 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査への参加 ・学習指導要領体育・保健体育科「技能」の習得状況の把握 ・運動に関するアンケート等による把握 <p>○新体カテスト実施方法の周知 測定方法や測定の意義、活用方法などを理解し、教職員の共通理解のもと学校全体で取組を行う。</p> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「体カテスト実践説明会」(スポーツ健康教育課)への参加 ・指導主事等の招聘による校内研修の実施 ●「新体カテスト実施方法動画CD」(スポーツ健康教育課)の視聴 <p>○データの集計・分析 収集したデータの分析を行い、児童生徒の課題を明確にする。</p> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内に分析グループを組織(例えば、体育部会など) ・業者に委託 ●体カテストデータ処理ソフト「カンタンくん」(スポーツ健康教育課)の活用 <p>○継続した個人データの蓄積 個人のデータを継続的に蓄積することで、教職員の体力向上に関する意識を高め、個に応じた取組の充実を図る。</p> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人カルテ等を作成し、継続的に児童生徒の実態を把握 <p>●高知県の児童生徒の体力に関する課題を把握するための取組 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果から、本県の課題を明確にし、課題解決に向けた施策に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力向上支援委員会(調査結果分析委員会)による分析

(2) 体力向上を意図した体育・保健体育の授業の充実

ア 「わかる・できる」を実感できる授業の展開

○「わかる・できる」 ⇒ 楽しい授業づくり

1時間の中で、「何を、どのように」教えるかを明確にし、指導と評価が一体化する授業づくりを行う。

※具体的な取組例

- ・ 体育・保健体育の研究授業や校内研修の実施
- ・ 県内外の研究会等への計画的参加体制づくり
- 「小学校体育実技指導資料」(平成 21 年度作成：スポーツ健康教育課)の活用

○授業指導力の向上

できないことをできるようにさせる指導力を持つことで、運動が好きになる児童生徒が増え、積極的に運動しようとする意欲を向上させる。

※具体的な取組例

- ・ 指導主事等の招聘による実技研修会等の実施
- 実技研修会〔体育実技指導者講習会・体育の授業パワーアップ講座〕(スポーツ健康教育課)等への計画的参加体制づくり

○外部講師を活用した授業づくり

専門的指導力を持った外部講師を積極的に活用し、チーム・ティーチングによるきめの細かい、個に応じた授業づくりを行う。

※具体的な取組例

- ・ 学校による地域人材リストの作成・活用
- ・ 中学校保健体育教員を活用した小中連携による授業づくり
- 「地域スポーツ人材の活用実践支援事業」(スポーツ健康教育課)の活用



魅力ある体育学習・体育的活動の充実	イ 体力向上を意識した授業の展開	<p>○運動の質と量を確保する授業づくり</p> <p>体力向上に向けて、授業の活動内容と運動量を確保する授業づくりを行う。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動（遊び）の授業の充実 （「多様な動きをつくる運動（遊び）」（文部科学省作成資料）の活用） ●「子どもの体力向上5分間プログラム」（スポーツ健康教育課）等を活用した授業づくり ●「小学校体育実技指導資料」（平成21年度作成：スポーツ健康教育課）の活用 ●「体力向上プログラム研修会」「体育の授業パワーアップ講座」（スポーツ健康教育課）への計画的参加体制づくり </div> <p>○体力向上を意識した学級（教科）経営案づくり（小学校）</p> <p>学級の実態に応じて、体力向上に向けた学級経営案を作成し、継続的、計画的な取組を行う。</p>
	ウ 系統性を考慮したカリキュラムの作成	<p>○体力向上を意識した体育・保健体育科のカリキュラムづくり</p> <p><目的・ねらい・指導内容・活動内容・指導上の留意点>等を入れ込んだカリキュラムを作成し、系統性を持って指導する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内担当による作成 ・地域における体育主任会等で連携して作成 ・小中連携による9ヶ年のカリキュラムの作成 </div>

魅力ある体育学習・体育的活動の充実	(3) 身体を使った運動をする機会の充実
	<p>ア 学校の特色 を生かした取 り組みの充実</p> <p>○業前、業間等を利用した運動機会の工夫 業前、業間等を使って、楽しく体を動かす取組を工夫し、運動機会を増やす。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動集会の定期的な実施 ・学校オリジナル体操の作成・実施 ・ランニングタイムやなわとびタイム等の実施 ・中休みの時間を増やして、外遊びを奨励 ●「遊びの達人 大集合！」(スポーツ健康教育課)を活用 </div> <p>○特別活動等を利用した運動機会の工夫 体育的活動等を使って、楽しく体を動かす取組を工夫し、運動機会を増やす。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校、縦割りによるローテーション遊び ・なわとびフェスティバルやスポーツ大会等の実施 ・地域の方を招いての伝承遊びフェスティバルの開催 ・参観日を利用した親子体操教室等の開催 ●「スポーツ選手夢先生派遣事業」(スポーツ健康教育課)の活用 </div> <p>○体を動かしたくなる運動環境の工夫 児童生徒が自然と体を動かしたくなる運動環境を整備する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道に円や壁に的当てなどのイラストを書く ・遊び方を紹介したプレートを提示 ・ボールや竹馬、一輪車など使いやすいように配置 ・遊び名人カード等を作成し、活動意欲を高める </div>

2 運動習慣の定着

	対応の視点	内 容
運動習慣の定着	(1) 児童生徒の実態の把握	
	ア 実態把握による適切な支援	<p>○児童生徒の運動習慣・生活習慣について正確に把握するための取組 児童生徒の実態を把握する方法を工夫し、実態把握を行うことで課題を明確にし、適切な指導計画を立てる。</p> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣調査実施・分析・計画・実施 ・生活習慣調査実施・分析・計画・実施
	(2) 運動習慣の大切さに気付く指導計画づくり	
	ア 実践的理解を育てる保健学習の授業づくり	<p>○「知識を活用した学習活動」を生かした授業づくり 児童生徒の思考力・判断力を育てるために、知識を活用した学習場面を取り入れた授業づくりを行う。</p> <p>※具体的な学習場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活と健康（小学） ・健康な生活と疾病の予防（中学）
	イ 行動化につなげる保健指導の授業づくり	<p>○基本的な生活習慣を身に付けるための保健指導の計画づくり 休養・睡眠・運動のバランスの取れた望ましい生活習慣を身に付けるための保健指導の全体計画を作成・実践する。</p> <p>※具体的な指導計画例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導年間計画の作成 ・定期的な保健集会の実施 ・外部講師による出前授業や講演
(3) 児童生徒が自ら運動習慣を身に付けようとする活動の工夫		
ア 学校や地域の特色を生かした体験学習の実施	<p>○〈遊び〉を核とした体験学習の実施 〈遊び〉を活動の核として異学年交流や異校種交流などを通して、遊びの楽しさや異年齢での活動のおもしろさを体験することで日常化を図る。</p> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所とのふれあい活動 ・上級生と下級生のふれあい活動 ・縦割り班単位での遠足やウオーキングラリー 	

<p>運動習慣の定着</p>	<p>イ 自らの問題意識を育てるための児童会・生徒会活動での取組の工夫</p>	<p>○児童会・生徒会活動を通じた活動の工夫</p> <p>学校全体の運動習慣等の課題を話し合い、協力して解決を図る活動を行う。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月目標の設定（例：外で遊ぼう運動、早ね・早おきをしよう運動等） ・委員会による企画（例：昼休み縦割り班対抗大縄とび大会等） </div>
----------------	---	---



3 校内指導体制の確立

	対応の視点	内 容
校内指導体制の確立	(1) 校内指導体制の確立	
	ア コーディネーター的教職員の校務文書への位置づけ	<p>○校内指導体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体力・運動能力に関する情報が共有されているか。 (職員会議や学年会で体力の話題が取り上げられているか) ・ 体力向上に向けた組織体制が整っているか。 (体力向上を担任任せにはしていないか) ・ 体力向上の取組を中心的行なっている教職員はいるか。 (コーディネーター的教職員の存在) <p>○コーディネーター的教職員の役割</p> <p>コーディネーター的教職員は、体力向上に全教職員で取り組むために児童生徒の状況に応じた適切な対応を行なうための推進役となる。</p> <p>各学校及び教育委員会では、研修等を実施しコーディネーター的教職員の育成に努める。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的なコーディネーター例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育主任 ・ 教務主任 ・ 研究主任 <p>※具体的な役割例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体力向上のための情報収集 ・ 複数教職員による支援体制づくり (チーム支援) ・ 保護者支援の推進 </div> <p>○体力向上へのチームの支援</p> <p>児童生徒の体力向上のためには、コーディネーター的教職員を中心にした支援チームによる組織的な取組を行う必要がある。</p> <p>支援チームは、児童生徒の現状分析等から課題を克服するための具体的取組を検討、実践を推進し、定期的に成果を確認しながら取組を改善していく。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※支援チームによる取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育主任を中心とした体育部による支援 </div>

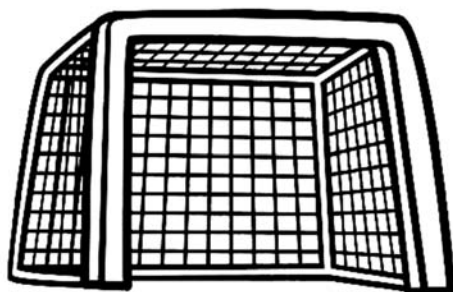
校内指導体制の確立	<p>イ 運動が苦手な児童生徒への取組の充実</p>	<p>○個人カルテ等の作成・活用</p> <p>体力に関する児童生徒一人ひとりのカルテを作成し、個に応じた取組の充実を図る。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的なカルテの内容例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの実施種目 ・体育・保健体育における各種技能の習得状況 ・アンケート等による意識調査内容 </div> <p>○放課後や長期休業中の活用</p> <p>運動が好きではない又は得意ではない児童生徒に対しては、放課後や長期休業中を活用し、その能力に応じて楽しみながら体を動かす機会を確保する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できない児童生徒を対象とした水泳教室や器械運動教室等の実施 ・運動神経を高める運動教室やニュースポーツ等の実施 ・地域で行なわれるスポーツイベントや総合型地域スポーツクラブ等の保護者への紹介 </div>
-----------	----------------------------	--

4 研修の充実と啓発活動

●教育委員会の取組及び関連事業

	対応の視点	内 容
研修の充実と啓発活動	(1) 体力を向上させるための研修会等の充実	
	ア 管理職のリーダーシップの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●管理職の役割を確認し、具体的な取組方法を学ぶ研修の実施 ●地区別学校長会での体力向上に関わる説明の実施
	イ 児童生徒の体力向上に向けた指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●体育実技指導者講習会（8月中旬実施） 「子どもの体力向上指導者養成中央研修会」の派遣教員が講師となり、研修内容を実技と研究協議を通して県内に伝達する。 ●体育の授業パワーアップ講座（7月下旬～8月上旬実施） 高知県小学校体育連盟と連携し、体力向上につながる授業のマネジメント能力について、模擬授業等を通しての研修を行なう。 ●初任者研修、各年次研修 体育・保健体育科の研修の一環として、体力向上について研修を行なう。

研修の充実と啓発活動	ウ 研修内容の共有	○校外で行われた研修内容の報告 校外で行われた研修に参加した教職員は、職員会議等を利用して、研修内容を報告し研修内容の共有を図る。
	(2) 啓発活動の推進	
	ア 体力関連調査報告書による啓発	●体力関連調査報告書の作成 「体力・運動能力・生活実態等調査報告書」(10月頃) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査—高知県概要版—」(1月頃) ●市町村(学校組合)教育委員会体力担当者協議会の開催(1月下旬) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(文科省)の結果公表を受け、地教委の担当者に対し、県内の状況についての説明会を行う。
	イ 指導資料等による啓発	●小学校体育指導資料の作成・配布 2部構成で作成 緊急版(平成21年4月下旬) 年間指導計画版(平成21年9月) ●子どもの体力向上5分間プログラムの作成・配布 資料+DVDで構成(平成21年9月配布)
	ウ こうちの子ども体力アップホームページによる啓発	●体力関連専用ホームページによる情報提供 体力に関する専用のホームページを作成し、リアルタイムで情報発信を行う。
エ 学校訪問時における啓発	●学校訪問時における啓発活動の工夫 スポーツ健康教育課、教育事務所等のあらゆる学校訪問の際に、体力向上に対する取り組み状況の把握や情報提供を積極的に行っていく。	



研修の充実と啓発活動	オ 保護者への啓発	<p>○参観日を活用した保護者への積極的な啓発活動の工夫</p> <p>参観日を計画的に活用し、保護者への体力や運動習慣等の重要性について啓発活動を積極的に行う。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育・保健体育の授業参観 ・ 学級懇談時における学級の実態や体力の重要性についての話し合い ・ 体力に関する講演会の開催 ・ P T A 学級行事での親子体操教室等の実施 </div> <p>○学校の取組に関する情報提供</p> <p>学校での体力向上に対する取組が保護者と共有できるように、情報提供を積極的に行う。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校新聞や学級新聞、保健便り等の作成・配布 </div> <p>○親と学校のパートナーシップの育成</p> <p>児童生徒の運動習慣等を改善するため、保護者を支援グループの1人として位置づけて一体となった取組を行う。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 主体による「休日は親子で体を動かそう運動」の実施 ・ 放課後遊びボランティアとしての参加の呼びかけ </div>
------------	-----------	--

5 関係機関との連携

●教育委員会の取組及び関連事業

	対応の視点	内 容
関係機関との連携	(1) 学校体育団体や競技団体等との連携	
	ア 体力向上に向けた連携の推進	<p>●体力向上に向けた連携方法の工夫</p> <p>学校体育団体や競技団体等との連携方法を工夫し、児童生徒の体力向上に向けた取組の強化を図る。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>※具体的な取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各協議会等への委員としての参加 ・ 共催事業の企画・実施 </div>

IV おわりに

この「こうちの子ども体力アップアクションプラン」は、「平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果をもとに、平成21年度を体力向上対策に取り組む新たなスタートラインと考え、作成したものです。

併せまして、各学校の取組の参考になるように「指導の手引き」を掲載しております。

しかし、各学校で取り組むためにはより具体的な提案がまだまだ必要な部分も多くあります。実践例の紹介等についても、ここに掲載した以外に県内小中学校で様々な取組が行われて成果を上げていると考えられます。そのため、今後も引き続き情報の収集に努め、アクションプランや指導の手引きの充実を図っていきたいと考えています。

今後の課題としては、

- 各学校におけるアクションプランの活用状況の把握
- 成果を上げている実践例や各事業の成果を各学校に紹介する啓発活動の実施
- 体力・運動能力、運動習慣等調査等の継続

等です。

各学校において実践する中で、新たに出現する課題や内容の不十分な点について、率直な意見や情報を高知県教育委員会にお寄せいただきますようお願いいたします。

平成21年3月



こうちの子ども

